

平成20年9月8日開催
調 査

経済福祉常任委員会資料

調査事件 イカゴロの活用について

産業課水産グループ

イカゴロの活用について

1 イカゴロの排出量及び処理料金について

町内12社から排出されるイカゴロは、平成19年で2,060トン、平成17年から平成19年までの3年間の平均を見ると、年1,916トンの年間排出量となっています。

また、処理料金については、平成19年が2,645万円、3年間の年平均は、2,556万円となっています。

町内のイカゴロ排出量等の状況		(福島町水産加工振興協議会資料)		
	平成17年	平成18年	平成19年	3年間の平均
イカゴロ排出量	1,958トン	1,732トン	2,060トン	1,916トン
運搬料・処理料	2,659万円	2,364万円	2,645万円	2,556万円

2 イカゴロの処理状況について

イカゴロの処理については、ケイエム飼料函館(北斗市)が、福島町を含む2市7町(函館市、北斗市、福島町、松前町、上ノ国町、乙部町、七飯町、旧熊石町、旧大成町)のイカゴロを受け入れております。

なお、受け入れたイカゴロは、大豆かすを混ぜて養殖エビ用の飼料に加工しています。

イカゴロ処理量の状況		(道南いか残滓安定処理対策協議会資料)		
	平成17年	平成18年	平成19年	3年間の平均
事業所数	90社	85社	84社	—
イカゴロ排出量	7,911トン	7,601トン	8,592トン	8,035トン

3 町内水産加工場における町内水揚げのイカ取引引き量について

福島吉岡漁業協同組合における水産加工場との加工用イカの取引引きについては、平成19年で205トン、平成17年から平成19年までの3年間の年平均では、212トンとなっています。

町内水揚げイカの加工取引引きの状況		(福島吉岡漁業協同組合資料)		
	平成17年	平成18年	平成19年	3年間の平均
加工取引引き量	294トン	138トン	205トン	212トン
全体水揚げ量	356トン	366トン	402トン	375トン